

今日のみことば

□ 9月9日(日) ネヘミヤ 11章

州の長たちのことが記されている。エルサレムには富裕層が住んでいた。一般の民衆は市外の畑地に住む方が生活に便利なので市内に移り住むことを好まなかった。

□ 9月10日(月) ネヘミヤ 12章

レビ人と祭司の帰還者の名簿と、城壁が落成された時のことが記されている。そして最後にレビ人と祭司に対する給与の規定が記されている。

□ 9月11日(火) ネヘミヤ 13章

ネヘミヤが一時バビロンに戻っている間に、エルサレムを悪弊が覆ったが、エレミヤは帰国早々、典型的な精力と果断とをもって禍根を処理し始めた。

□ 9月12日(水) エステル 1章

物語はシュシャンにあるアハシュエロス(クセルクセス)王の宮殿において始まる。王妃ワシュテイが祝宴に出席することを拒んだので、処罰され王宮から追い出された。

□ 9月13日(木) エステル 2章

王は美しいエステルを見て、彼女を新しい王妃にした。叔父モルデカイはユダヤ人であることを話すなどと言った。王を殺害しようとの陰謀をモルデカイの警告で、未然に防がれた。

□ 9月14日(金) エステル 3章

モルデカイは王妃の尊大な首長であるハマンにひびをかかめなかった。ハマンはモルデカイがユダヤ人であることを知って王からすべてのユダヤ人を殺す許可を取り付けた。

□ 9月15日(土) エステル 4章

エステルはこの知らせを聞いたとき、王の命令がないのに王の前に出ることは危険な手段でしたが、同胞のために彼女は自分のいのちをかけることに同意しました。

ろ ぼ No. 1883
2018年 9月 9日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヨハネ 14:6
イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり命である」

「礼拝すべきお方」を知った私たちの歩むべき道は明らかです。しっかりそのお方を見つめ続けることです。イエスは「霊と真理をもって」拝することを告げられました。

私たちの主であるお方を見つめて、礼拝を守らせていただきますあのサマリヤの女はこのイエスの言葉にすべての迷いから解放されて、元気を取り戻しました。それは私たちがいつも切に願っていることです。私はその彼女のひたすらにイエスを見つめることを通していただいた恵みを、私もいただきたいとねがっています。神の国の栄光に満ち溢れる世界を願っています。

イエスと共に歩んだ弟子たちがイエスに尋ねたことを聞かせていただくとき、本当にイエスがどなたであるか、心の底からイエスに従いながらなお、葛藤している弟子たちの姿を見させていただきます。

イエスは私たちに、イエスが共にいるとき、それがどれほどの安心と安らぎが与えられるか語って下さるのでした。分かっている。けれどもどのようにしてそれを実感できるか。弟子たちはイエスに尋ねるのです。私たちも同様ではありませんか。塚本虎二先生が、「信仰箇条の承認は信仰ではない、と言われた言葉を聞くのでした。(私は信仰箇条をしっかりと受け止めて、確信に満ちた信仰生活をするのは大切であると思っています。) 塚本先生は、その使徒信経を承認するか否かで、信者

不信者を区別し、救わるべき人と滅ぶべき人とを判別するが如きことは、教会が勝手に決めたことであり、そんなまちがったことはないと思う。…使徒信經に列挙されたる事實は、皆事實である。…信仰は事實の承認ではない。聖書に『悪鬼も信じて慄けり』(ヤブ2:19)とある通りで、それは何も信者に限ったことではない、と言われるのです。ならば信仰とは何であるか。信仰とは信頼である。愛である。神を信ずるとは、神を愛し、彼に全幅の信頼を投げかけることである」と言われましたイエスがご自分の苦難のときが近づいているのをお知りになって、そのことを語られたとき、彼らは本当に、全くその言葉を理解することが出来ませんでした。私に安心を与えてくださいと願う弟子の言葉に、イエスは「わたしは道であり、真理であり、命である」と言われるのでした。それでも理解しえていない彼らに、イエスは「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』というのか。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。」言われるのでした。実にイエスのこの言葉は適格でして、今日の私たちの惑いにくぎを刺される言葉として聞かせていただくのです。

私たちの願いのすべては、イエスにあります。それがイエスキさまです。すべての祝福の基は万物の主であるお方です。イエスは独り子なるお方です。

次週の聖書・説教

詩篇27:1-15 宣教の精神

聖書の学び・祈祷会

士師記13:1-5, 19-25

サムソンの誕生

イスラエルが40年間ペリシテ人に悩まされたのは、彼らが神の前に行った悪に対する神のさばきでした。またしても、罪さばき、悔い改めのサイクルが始まりました。しかし神は一方で解放者を用意しておられました。

マノア夫妻に子どもが与えられ、その子をナジル人として育てよとの言葉が主から与えられました。それは神が彼を用いてイスラエルを救われるためでした。しかしサムソンの生涯は、私たちの模範になるよりは、戒めになるような多くの悲劇・肉欲に負けた一を含んでいます。

マノアがみ告げが主からのものであることを知ったときは、恐れおののきましたが、マノアの妻は主を信じて動揺などしませんでした。マノアの妻は男子を生み、サムソンと名づけられました。サムソンの幼いころ神の祝福は彼の上に豊かであり、神はサムソンを恵まれました。



Read God's Word.